



心豊かな暮らしを維持しながら均整のとれた人口増加を維持し  
「若者が住みたい」「子どもを育てたい」を醸成するまちを目指して



# 中城

中城村人口ビジョン及び総合戦略【概要版】

平成28年3月



# 国の人口動向と地方創生

国の人口は2008年の1億2,808万人をピークに人口減少時代に突入し、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2048年に1億人を割り込み、2060年には8,674万人まで減少が見込まれています。

人口減少に伴う高齢化の進行は、経済規模の縮小や国民所得の低下を招く恐れがあり、2050年には現在の居住地域の6割以上で人口が半分以下に減少し、2割の地域で無居住化すると推計されています。

また、東京圏には過度に人口が集中しており、地方に比べ出生率が低い東京圏に若い世代が集中することによって、日本全体としての人口減少を招いています。

国ではこうした人口動向を踏まえ、「東京一極集中の是正」「若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現」「地域の特性に即した地域課題の解決」を基本的な視点に、人口の将来展望を描く長期ビジョン・総合戦略を策定しました。

この長期ビジョン・総合戦略により、「人口減少と地域経済縮小の克服」と「地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし日本全体を引っ張っていくという好循環の確立」を目指しています。

## 中城村の人口動向

### 人口増えてます！全国的にも高い人口増加率

- 1980年頃まで横ばいで推移してきましたが、1980年代後半から現在まで一貫して増加しています。
- 中城村第四次総合計画における2016年の計画人口19,500人を上回るペースで増加しています。
- 国勢調査による「2005～2010年人口増減率順位」では全国10位(11.9%)の増加率を示しました。

### 中城は住みやすい！転入数の増加傾向が顕著

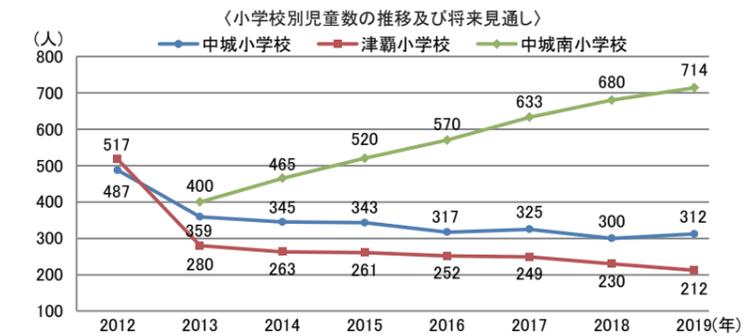
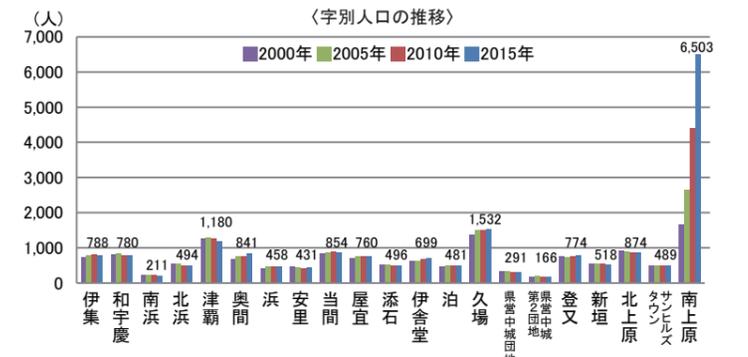
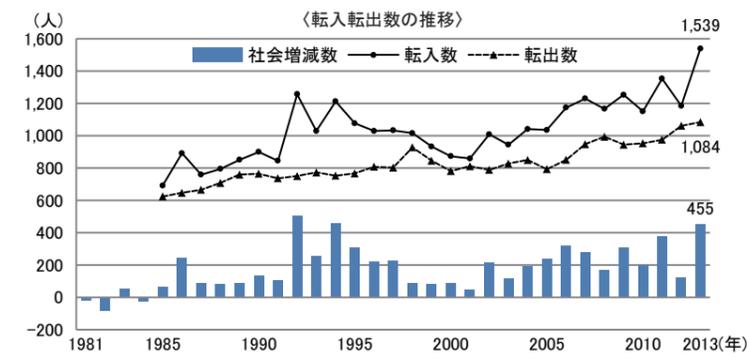
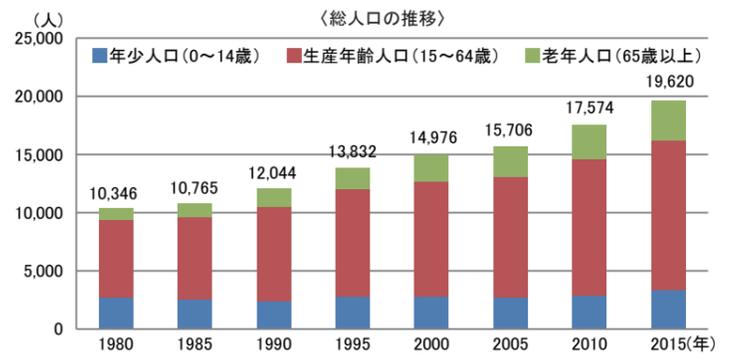
- 1980年前半までは転出超過で推移してきましたが、1985年以降は転入超過となり、現在まで社会増が続いています。
- 1985年以降の一貫した転入超過は、1984年の琉球大学移転及び1994年から現在まで続く南上原土地区画整理事業によるものと考えられます。

### 人が増えているのは？南上原への一極集中

- 2015年10月末の南上原の人口は6,503人で、村人口のおよそ3分の1を占めています。
- 過去10年南上原の人口は年9.0%のペースで増加し、村の人口動向に大きく影響しています。
- 南上原以外の字人口は微増微減を繰り返し推移しており、近年の人口増加はその大部分が南上原における人口増加によるものです。

### 南上原以外では？少子化が進行中

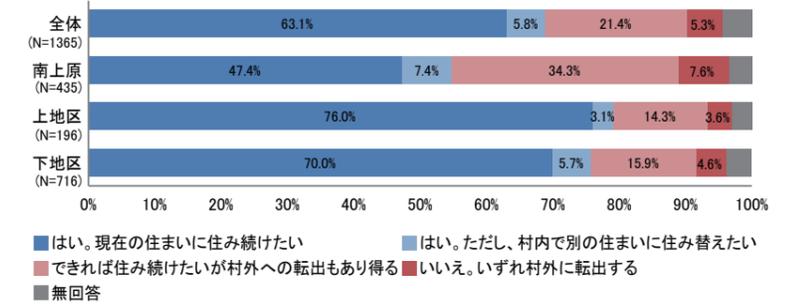
- 中城南小学校は、南上原の人口増加を背景に2013年に津覇小学校南上原分校から本校化しました。
- 今後、中城南小学校の児童数は毎年50名程度の増加が見込まれています。一方、中城小学校と津覇小学校では、今後児童数が減少が見込まれています。



# 村民意識（アンケート調査結果から一部抜粋）

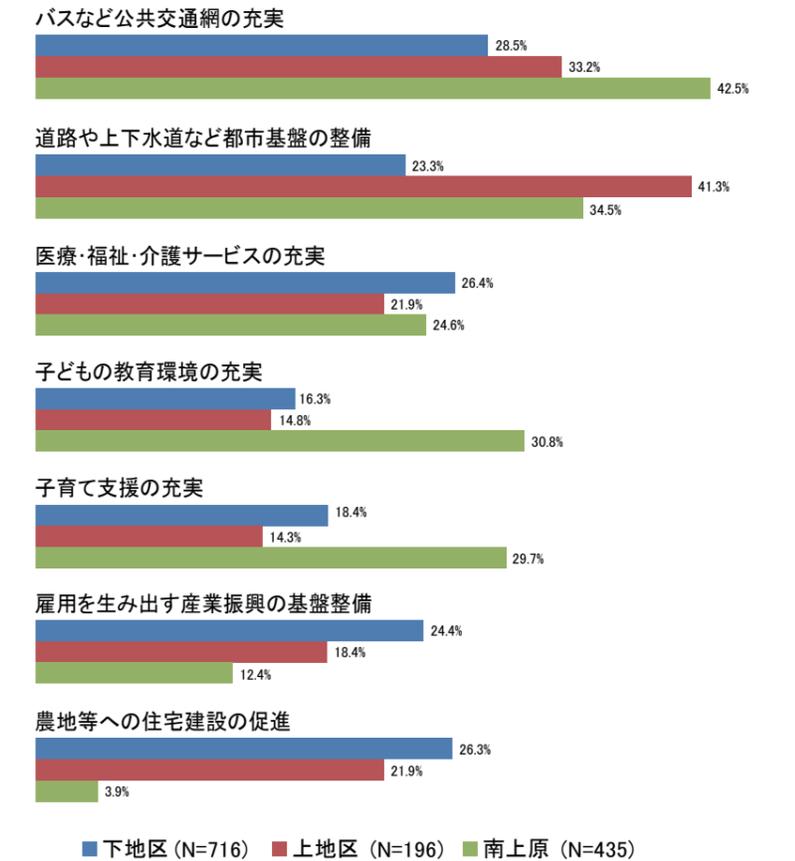
## 中城に住み続けたい！全体の7割が今後も中城村に住み続けたいと考えています

「現在の住まいに住み続けたい」(63.1%)と「ただし村内で別の住まいに住み替えたい」(5.8%)を合わせると、全体の約7割が定住の意向を示しています。「できれば住み続けたいが村外への転出もあり得る」(21.4%)と回答した人々についても、必要な環境や条件が整えば、定住に傾く可能性を有しており、これらの人々を含めると、9割が定住の意向を持っているといえます。



## こんな風になってほしい！村への要望も地区によって様々です

- 全体では「バスなど公共交通網の充実」と回答した人の割合が最も高く、次いで「道路や上下水道など都市基盤の整備」「医療・福祉・介護サービスの充実」となっています。
- 南上原では「バスなど公共交通網の充実」の割合が最も高く、次いで「道路や上下水道など都市基盤の整備」となっています。また、「子どもの教育環境の充実」「子育て支援の充実」の割合が他の2地区に比べて高くなっています。
- 上地区では「道路や上下水道など都市基盤の整備」の割合が最も高く、次いで「バスなど公共交通網の充実」となっています。
- 下地区では、南上原・上地区に比べて回答が分散しており、そのうち「バスなど公共交通網の充実」「医療・福祉・介護サービスの充実」「農地等への住宅建設の促進」「雇用を生み出す産業振興の基盤整備」「道路や上下水道など都市基盤の整備」の割合が高くなっています。
- 「農地等への住宅建設の促進」の割合は、上地区・下地区では高い一方、南上原では低く、土地利用の違いを反映した結果となっています。



## 結婚・出産・子育てに関するご意見

- 結婚したいと思える環境づくりに必要な支援については、「結婚と仕事の両立に対する支援」「経済的支援」が上位を占めました。
- 理想の子ども数について約5割の方が「3人」と回答しましたが、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「仕事と子育ての両立が難しい」といった理由で実現できていないことがわかりました。
- 子育ての苦勞については、4割を超える人が「経済的負担が大きい」ことを挙げています。
- 子育て世帯では、子どもの人数に応じた経済的支援や、医療費の拡充等による負担軽減を求める声が多く挙げられました。



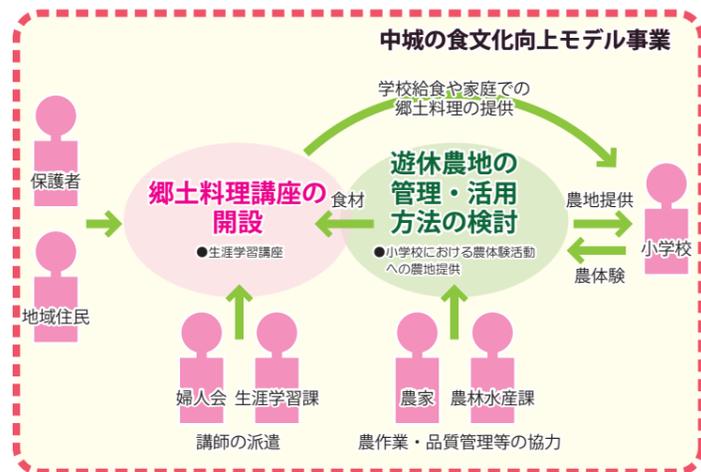
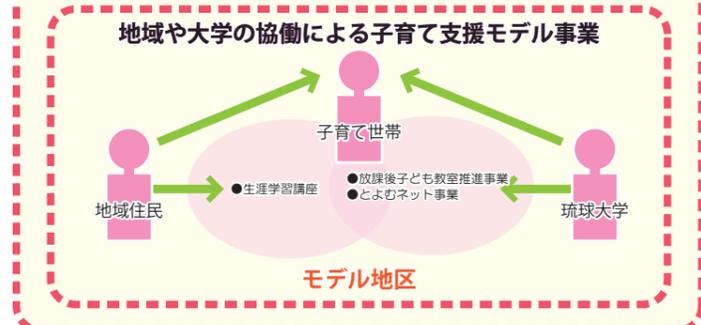
中城村総合戦略 (2015～2019年度の5カ年)



# 総合戦略のPR

事業・取り組みを効果的に推進するためには、それぞれの事業・取り組みが対象とするターゲットに対して、確実な情報発信を行う必要があります。

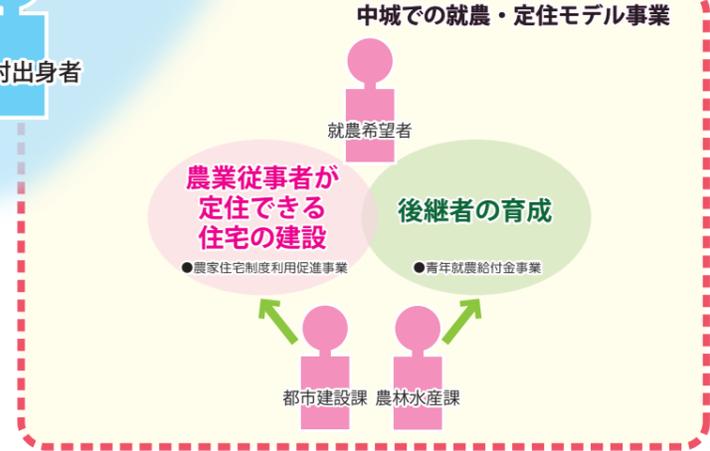
村内居住者に対しては、各々のライフステージや目的ごとに必要な情報がワンストップで入手できるよう窓口の集約化を進め、必要とする支援が円滑に行き届くよう市内の連携を図ることで、「住み続けたい」「中城で子育てをしたい」という意識を高めていくことを目指します。まずは村内居住者が住み続けたいと思える環境づくりを行い、村外居住者の居住地選択や、観光客の訪問地選択において、村民の暮らしそのものが中城村の大きな魅力となるよう村外への情報発信へとつなげていきます。



今後の事業展開においては、各事業を関係課が個別に実施するのではなく、複数の事業を束ね、関係課が横断的にプロジェクトチームを形成することで、より高い効果を得ることのできるモデル事業として実施することが期待できます。

## 中城らしいまちづくりモデル事業（案）

## 中城村の暮らし・観光PRを通じた移住・訪問の促進



# 中城村人口ビジョン（2060年までの将来展望）

## ■人口の現状分析

- ・村の人口は増加傾向にあり、2010年の「人口増減率順位」では全国10位（1,882人増、増加率11.9%）に位置しました。
- ・沖縄県内でも特に人口増加が著しい本村ですが、2008～2012年の合計特殊出生率は1.67となっており、県や周辺市町村の値を下回る水準となっています。
- ・転入が転出を上回る状態が続いており、年間人口増加の7～8割が社会増によるものです。

◎希望子ども数の実現と社会増分の人口を受け入れる住宅供給を実施することで、安定的な人口増加と急激な高齢化抑制が可能

## ■人口の将来展望

### 1. 将来の方向

#### ①南上原以外の地区の人口増加を図り、村全域において活力を維持する

南上原への若い世代の転入が続き人口が順調に伸びるなか、那覇広域圏における通勤・通学の利便性から、本村に対する居住ニーズは一定のレベルで推移すると考えられます。この居住ニーズを上地区・下地区の人口増加へとつなげていくことが重要であり、両地区における住宅供給施策の推進を通して、若い世代の転出を食い止め、転入を促進していきます。

#### ②出産・子育て支援の包括的な拡充により、若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望を実現する

村民からのニーズに対して、特に必要があると思われる分野においては拡充を図りながら、分かりやすい支援の仕組み、情報へのアクセス性の向上を図っていきます。さらには、健康保険、福祉、学校教育の各分野が連携することで、出産から子育て、初等教育までの期間を切れ目のない施策で支援していく体制を構築します。

#### ③中城らしさに支えられた暮らしを確立する

人口増加に伴う渋滞の慢性化への対処や、道路・下水道の都市基盤整備、公共施設の充実等を進めるとともに、土地利用の見直しや市街化編入等のまちづくりの基盤に関わる議論を積極的に実施します。

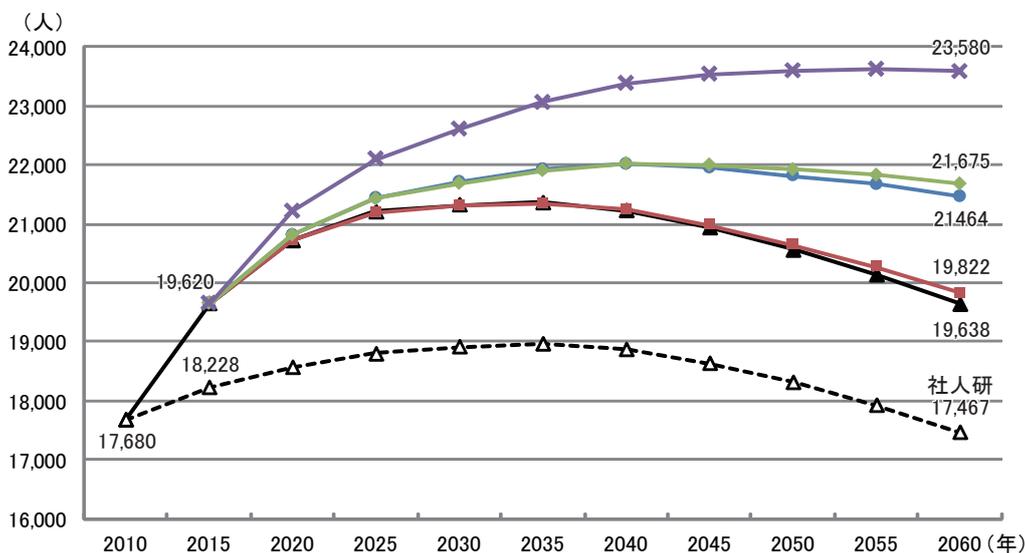
そして、人口の一極集中を改善し、一定規模以上の人口を確保しながら、上地区・下地区においても活力を維持し、村民一人ひとりが中城村に住んで良かったと思える暮らしの確立に取り組んでいきます。

### 2. 将来展望

◎2020年当初：21,000人

◎2060年当初：20,000人前後の人口を維持し、以降安定推移を図る

以下の基本推計と4パターンの将来展望分析から、2020年当初の推計人口を21,000人、2060年当初を20,000人として、以降安定推移を図っていくことを目指します。



#### ▲基本推計

合計特殊出生率が現在程度（2008～2012年1.67）で、人口移動が縮小すると仮定した推計人口

#### ●将来展望①

国の長期ビジョンが想定する出生率（2030年に1.8程度まで向上し、2040年に人口置換水準である2.07が達成されるケース）に置き換えた推計人口

#### ■将来展望②

基本推計で仮定した南上原における人口移動均衡に加え、上地区・下地区において2020年以降移動が均衡すると置き換えた推計人口

#### ◆将来展望③

将来展望推計①・②を基に、合計特殊出生率が向上し、かつ人口移動が均衡した場合の推計人口

#### ✕将来展望④

合計特殊出生率が向上し、かつ移動が縮小する中で、転出超過が続く上地区・下地区の10～20代の若い世代について、2020年にはこの状況に歯止めがかかり、以降この年齢層の移動が均衡した場合の推計人口

<お問い合わせ> 中城村役場 企画課 企画調整係

電話 098-895-2131 FAX 098-895-3048